

マンモグラフィについて

マンモグラフィ検査とは どんな検査ですか

マンモグラフィ検査は乳房を2枚の板で挟んで平らにのぼした上でレントゲン写真を撮影する検査です。

このような状態でレントゲン写真を撮ると乳房内の様々な構造物が影絵のように重なった状態で写し出され、乳腺構造とは異なるものがあると病変として検出されます。

岐阜市民病院では乳癌診断に使用されるマンモグラフィ装置を更新し、富士フィルムメディカル社製 AMULET Innovality

FDR MS-3500という最新型でハイスペックな撮影機器を導入し平成30年11月26日から新装置での検査を開始しています。

新規導入のマンモグラフィ装置はこれまでとどう違うのでしょうか

これまでのマンモグラフィ装置に比べて次のような点で改良されています。

① **検査時の痛みが軽減**
従来の装置では、乳房撮影をする際にプラスチックの硬い圧迫板で乳房を強く撮影台に押さえつけて撮影するため、苦痛を感じ

ることがありました。新しい装置では、優しく乳房全体にフィットする圧迫板を使用し、検査時にかかる圧力を分散することで痛みが軽減されます。

② 被ばく量が少ない

新しい装置では、1回の撮影で数十枚の連続断層画像を撮影するトモシンセシスという技術を用いるため、現在よりも低線量で放射線被ばくを減らした検査が可能となります。

③ 高画質な画像により高濃度乳房にも対応

従来のマンモグラフィ画像は、

マンモグラフィ検査態勢は どのようですか

乳房を対象とした検査ですから、検査を受けられる方は大部分が女性になります。

岐阜市民病院では、安心して検査を受けていただけるようマンモグラフィ撮影をおこなうスタッフは全員女性でおこなっております。

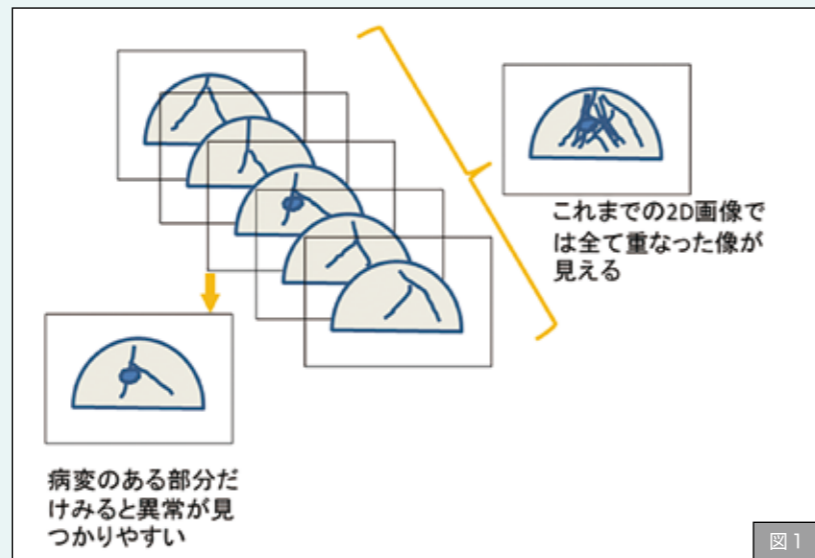


図1

した画像を数十枚取り出すことができますので、従来の二次元画像では隠れて見えなかった病変が確認し易くなり(図1左挿絵)診断能力向上が期待できます。トモシンセシスの助けを借りることで、病変が検出できないことや不要な検査を減らすことができます。

④ 確定診断のための検査 (マンモトーム生検)

新しい装置では、検出された病変に対して、

ステレオガイドマンモトーム生検とってマンモグラフィで病変を確認しながら正確に組織を採取する検査が可能になりました。

検査もトモシンセシスで視認性が向上するため、従来より正確な検査が可能となり早期の治療につなげることができます。

図1右挿絵のように三次元の乳房内構造が二次元の画像に重なって投影されます。乳腺組織が多い場合は重なり合う構造物が多く高濃度乳房といわれる画像になり、病変が隠れてしまつて診断されにくくなります。

新しい装置では、トモシンセシスにより乳房を薄くスライス

今月の先生



岐阜市民病院 乳腺外科
中田 琢巳 先生

- 専門分野
乳がん診療
- 役職
乳腺外科部長
外来化学療法部長
- 主な資格、認定
日本外科学会専門医
日本乳癌学会専門医
- 卒業年、主な職歴
平成3年 岐阜大学医学部卒
岐阜大学医学部附属病院第2外科